



平成20年 9月18日発行 No.7



巻 頭 言

近畿地方会会長

梶本祐一郎

この度、日本小児歯科学会近畿地方会会長を務める事になりました。どうぞよろしくお願い申し上げます。

私が大阪歯科大学で小児歯科を研修していた頃は「虫歯の洪水」といわれる時代でした（死語になりつつありますが）。

日々来院される重症ウ蝕の患者さんの治療に追われ、患者さんも保護者も私も時間的、精神的余裕もなく、ただただ目の前の治療に目が向いていたように思います。

最近では、多くの先輩諸先生方のたゆみない努力により、子どもたちのウ蝕が激減しました。この事は小児歯科に携わるものとして、国民の皆さんに胸を張れるのではないかと誇りに思っています。

次は私たちの世代が次世代を担う若い人たちにバトンを渡すときです。

そのためには、一人一人の患者さんに十分な時間をかけ、子どもの成長発育とともにあゆみながら、その専門性を限りなく発揮することで多くの方々に感謝され、尊敬される小児歯科専門医を目指し、小児歯科医療をさらに発展させる事だと思えます。

次世代を担ってくれる若い先生方や、歯学生、コ・デンタルスタッフに夢と希望を与え、情熱が持てるような小児歯科学会であるように少しでもお役に立てればと思っています。

また、小児歯科学会認定歯科衛生士制度が発足しました。小児歯科医療の重要なパートナーである歯科衛生士の方々に、より充実した研修の機会がもうけられた事は非常に喜ばしい事と思えます。

今後とも会員の皆様のご協力をお願いいたします。

理事長就任挨拶



有限責任中間法人日本小児歯科学会理事長
朝田 芳信

平成20年度有限責任中間法人日本小児歯科学会総会において22期（平成20年度・21年度）の理事長を拝命いたしました。日本小児歯科学会近畿地方会の会員の皆様におかれましては、日頃から本学会発展のために御尽力頂き感謝申し上げます。

歯科界は、歯科医師需給バランス、卒後研修医制度の義務化、専門医制度の発足、医療技術評価の見直しなど、重要な課題が山積しています。課せられた重要課題と対峙するには、本学会の会員が一丸となり、時代のニーズに応えられる小児歯科医療および小児歯科医学を構築する必要があります。また、公益法人制度改革により、新制度が平成20年12月1日から施行され、本学会は有限責任中間法人から一般社団法人に移行します。今まで以上に、学会として責任ある情報を発信すると同時に、透明性の高い学会運営が求められます。責任ある情報提供の一環として、日本小児歯科学会、日本小児科医会、日本小児保健協会との間に保健検討委員会を発足させ、安全・安心な子育てを支援する目的から保護者にとって関心の高い「母乳とむし歯」、「イオン飲料とむし歯」、「おしゃぶり、指しゃぶりについての考え方」について、統一見解をホームページや小児歯科学雑誌などで公開しています。また、透明性の高い学会運営の一環として、理事会および常置委員会議事録のホームページ上での公開を考えております。

平成20年4月から小児歯科専門医制度が本格実施となりましたが、本制度は、国民に対し、個人の専門性を明示するものであり、大学勤務医、開業医を問わず専門医あるいは専門医指導医を取得することが可能となりました。すなわち、日本小児歯科学会の発展にとって、小児歯科専門医制度の充実是不可欠であり、本制度が充実するためには、広く国民に小児歯科専門医の役割と実力を知ってもらう必要があります。今後は、学会として小児歯科専門医が地域における小児口腔保健活動の核となって頂くよう積極的な働きかけと、その活動を支援するための法整備を進めていく所存です。



第27回日本小児歯科学会近畿地方会大会および総会のお知らせ

大会長 大嶋 隆
準備委員長 仲野 道代

第27回日本小児歯科学会近畿地方会大会および総会を下記の通りに開催いたしますのでご案内申し上げます。

大会および総会：平成20年10月19日（日） 9：00～15：00
大阪大学中之島センター
〒530-0005 大阪市北区中之島4-3-53

大会内容：1) 総 会

2) 特別講演「オーラルバイオフィルムの制御を目指して」

大阪大学大学院歯学研究科口腔分子感染制御学講座

(歯科保存学教室) 教授 恵比須繁之先生

教育講演「考えてみませんか、小児歯科保健の未来

－小児歯科保健についての私の提案－」

余呉町国民健康保険歯科診療所・歯科保健センター所長

安福 美昭先生

3) 一般講演

(1) 口 演

(2) 展示発表

大会事務局：〒565-0871 吹田市山田丘1-8 大阪大学大学院歯学研究科小児歯科学教室内
日本小児歯科学会近畿地方会事務局



大阪大学大学院歯学研究科小児歯科学教室・ 大阪大学歯学部小児歯科診療室のご紹介

大阪大学大学院歯学研究科小児歯科学教室は、大嶋 隆教授以下教員3名、医員6名、大学院生12名、専修医1名で構成されています。当教室では、乳幼児期から思春期にかけての歯科疾患のうち、「う蝕」および「歯周病」に対する基礎的・臨床的研究を行っています。特に、う蝕原性細菌である *Streptococcus mutans* に関して、その表層構造物の病原性への関連を分子生物学的手法や実験動物モデルを用いて検討しています。一方、歯周病に関しては、分子生物学的手法を用いて、乳幼児期からの歯周病原性細菌の定着に関してや母子における細菌種の分布などを経時的に分析するとともに、歯周疾患発症高リスク者の予知法の開発を目指した研究を行っています。また、近年取りざたされている口腔細菌と全身疾患の関わりについては、心臓血管手術で摘出された検体を用いた分析を行っています。

大嶋教授は、2008年4月より、大阪大学歯学部附属病院長を兼任しております。大阪大学歯学部附属病院小児歯科では、初診時0～15歳くらいの小児の歯科疾患に関する様々な問題を取り扱っています。具体的には、う蝕および歯周疾患に対する治療、外傷歯に対する処置、中心結節・骨性癒着歯への対応、幼若永久歯の処置、形成不全歯の管理、先天欠如歯に対する暫間補綴、正中埋伏過剰歯の抜歯などを行っております。また、位置や形態を判断しにくい埋伏歯の診査には、本院放射線科において可能なCTを含めた様々な画像撮影を応用して診断につなげております。自費項目としては、フッ化物塗布、保険装置の装着、咬合誘導、矯正治療上の便宜抜去、埋伏歯牽引のためのボタン装着、歯周病原性細菌検査などを行っております。症例によっては、口腔外科や顎口腔機能治療部などの院内の専門外来に紹介しております。治療困難児に対しては、マネージメントの確立に努めますが、必要に応じて抑制下での処置も行っております。また、全身疾患を有する患児に対しては、歯科麻酔科医のスタンバイのもとで治療を行うこともできます。さらに、本学医学部附属病院の各診療科との連携も行っております。当科診療室に対して、ご質問などありましたら、お気軽にご連絡いただければと思います。また、会員の先生方には、患児をご紹介いただく際には、本院や当科のホームページをご覧ください、本院の場所（本学医学部附属病院とは離れた場所にあります）のご説明をしていただくとともに、紹介状をダウンロードしてご使用していただければ幸いです。

現在、当教室主管で開催させていただく予定の学術大会が2つあります。1つめは、10月19日に大阪大学中之島センターで開催の第27回日本小児歯科学会近畿地方会大会です（大会長：大嶋教授、準備委員長：松本准教授）。もう1つは、来年の5月16、17日に、大阪大学吹田キャンパス内で開催の第47回日本小児歯科学会大会です（大会長：大嶋教授、準備委員長：仲野講師）。現在、医局員一同準備に取り組んでおります。それぞれ、臨床的にも基礎的にも興味深い大会内容になっていると思います。多数の会員の先生方・スタッフの方々のご参加をお願いいたします。



大嶋 隆教授 (科長)



仲野(松本)道代准教授 (副科長)



仲野和彦講師 (外来医長)



平成20年度歓送迎会
(現役スタッフとOBの先生方)

近畿地方会の各県別、会員・専門医・認定医・認定衛生士数 (H20年9月9日現在)

	会員数	専門医数	認定医数	認定衛生士
大阪府	288	48	51	4
兵庫県	136	33	21	1
京都府	62	9	9	0
奈良県	30	5	8	0
滋賀県	25	7	5	0
和歌山県	14	4	3	0
合計	555	106	97	5

日本小児歯科学会会員動向 (H20年8月27日現在)

	正会員								名誉 会員	賛助 会員	雑誌寄贈
	北日本	関東	中部	近畿	中四国	九州	合計国内	国外			
H19.3.31	530	1,556	541	523	385	541	4,056	40	26	20	60ヵ所(国内) 93ヵ所(国外)
H20.3.31	537	1,602	540	547	388	527	4,141	40	26	20	66ヵ所(国内) 93ヵ所(国外)
H20.8.27	536	1,630	557	554	395	532	4,204	41	27	20	66ヵ所(国内) 89ヵ所(国外)
専門医指導医	21	47	11	9	14	22	124	0			
専門医	108	296	119	106	85	103	817	0			
認定医	85	204	90	96	57	80	612	0			

第26回小児歯科学会近畿地方会大会を振り返って

第26回大会会長 亀井有太郎

昨年の今頃は、と思えば、準備委員の先生方と毎日のように、メールや電話のやり取りで忙しくしておりました。打ち合わせのための会議も、多くの先生方にご参加いただき、診療は二の次で診療所のスタッフも巻き込んで、大会の準備に手落ちはないか、受付の流れは大丈夫か、講演の先生方の発表準備は、来賓の到着時間、ポスター発表の位置、業者のテーブルの配置、弁当の手配、ホテルの部屋の会場設定、懇親会の準備…と、文字通り、てんてこ舞いの毎日でした。

今にして思えば、とにかく当日ご参加いただく先生方に納得してお帰りいただくようにまた来年も参加していただけるようにと、ただただその思いだけでした。

幸いなことに、どの会場もご存知のように立ち見が出るような盛況で、講演・発表の後も、質問で演者がホールで足止めされるほどでした。

学会を担当させていただき、兵庫県下の様々な地区、そして様々な年齢の先生と連携することで、各先生の小児歯科に対する取り組みの違いや、その地域での小児歯科医の立場、その活動等、意外なほど違っていたことに気付くことが出来ました。

学会とは関係の無い事まで親しくお話をさせていただく中で、多くを学び、感じる事が出来、大会長としてはご迷惑をおかけしたことも多々あったかと思いますが、非常に充実した一年でした。

最後になりましたが、準備委員の先生方、ご参加いただいた先生方、近畿地方会の幹事の先生方、大学の先生方には深く感謝申し上げます。

今年もまた、ご担当の先生方が準備に、大変なご苦勞をされているかと思いますが、大会の成功をお祈り申し上げます。

第26回大会会計 竹内 幸雄

月日が過ぎるのは早いもので、去年の近畿地方会から1年が経とうとしています。昨年の今頃は、会計担当として、大会が成功するとの確信と、参加者が思ったほどではなく、大赤字になるのではないかと不安が交錯していました。素晴らしい講師陣に見合った器をとということで、会場を広げた結果、ホテルということもあり予想支出も大きかったからです。ご存知のように、それも杞憂に終わり、有料参加者725人という過去にも類を見ない大盛会の大会でした。当日は、損益分岐点の参加者数と時間ごとの人数とをにらめっこしながら本当にヒヤヒヤものでした。

今思うことは、小さな個の力でも、集結すると絶大な力を発揮するものであることが改めて思い知らされました。前年の大阪大会の担当の先生から、企業からの協賛金、広告費を100万円集めることは非常に大変なことであったとお聞きしました。ところが26人の先生方のものすごい頑張りで195万円という過去にも、あるいは本大会でもないような金額が集まりました。もちろんプログラムの内容も良かったでしょうが、自分たちの手作りの大会を成功させようとの26の無償の思いの集結がこの様な成功を生み出した大きな要因の一つだと思います。改めて実行委員の先生方にお礼と感謝を申し上げます。